

## 地域の担い手確保に向けて

地域人材ベースキャンプの現状と今後について説明を受けた。

### 【地域人材ベース キャンプについて】

外部人材（マルチワーカー）の誘致、受け入れ、人材育成の役割を果たす地域人材のベースキャンプ組織を設立し、担い手を確保し、新たな視点やアイデアを活用した活性化、地域を先導していく人材育成を図る仕組みづくりや事業展開を目指す。

### ①町内事業者へのアンケート調査

- マルチワーカー導入に興味、関心のある事業者は28者
- 設立、運営に参画希望の事業者は19者

### ②農林業分野でマルチワーカー導入の意向が強く、モデルケースも農林業を主軸に検討。

### ③都市部(首都圏等)在住者向けニーズ調査に956件回答。

- 住居費を抑制、リモートワーク・副業、ゆとりのある田舎暮らしへの憧れ、スキルアップにニーズ有り。

- 収入水準は、現在の80%以上を希望。

### 【今年度の取り組み】

- 組織を設立し、組合理事・事務局長選出。
- マルチワーカー募集ツアアの開催、採用に向けた取り組みの実施。

### 質疑

#### 地域人材

【委員】地域人材とはどういうことを想定しているか。

【当局】さまざまな仕事を体験していただく。その後やってみたい仕事があれば、企業に就職し定着していただくような取り組みを想定している。

#### 仕組みの検討

【委員】仕組みは、誰がどう検討し決めていくのか。

【当局】民間事業者と契約し、ベースキャンプ設立の支援をしていただいている。参画希望の19者を対象に打ち合わせ会を実施し、認識の醸成に努めている。

### マルチワークとは

一年もしくは一週間や一日のなかで、複数の仕事を掛け持ちすること



### 参画希望の職種

【委員】19者の主な分野は何か。

【当局】主に農業分野、製造業者、福祉分野などから回答があった。

### 目標値

【委員】何人ぐらいという目標はあるか。

【当局】需要と供給のバランスであり、具体的にはないが、小国町では、最初3人、現在5〜6人である。

## 税負担の公平性が課題

都市計画税の今後の方向性について説明を受けた。

### 【状況の変化】

公共下水道事業は、荒砥、鮎貝地区供用開始で計画は概ね完了。その後全町下水道化が進み、課税地域の特殊性は薄れている。

### 【課題】

課税区域の土地区画整理事業は、平成3年度の鮎貝地区の整備で概ね完了し、以後起債の償還に充当。下水道計画区域は拡大し、公平性が課題。

### 【今後のあり方】

当初の目的は達成され、税負担の公平性を考慮し対応する。

### 質疑

#### 償還はいつまで

【委員】都市計画税3700万円の充当先として償還金に充てている

が、償還はいつまでか。

【当局】都市計画事業と土地区画整理事業による起債は、令和9年度ですべて返済の見通しである。

#### 公平な見直しを

【委員】全町下水道化には個別処理もあり、下水道料金とのバランスも勘案しながら、見直しを進めてほしい。

【当局】下水道処理の負担は、どの事業も公平な取り扱いをしているが、行政経営改善委員会の中でも公平性を確認しながら、都市計画税のあり方を検討していく。

その他の説明

○令和4年度有明株式会社  
ケイエスしらかの  
経営状況について  
など